

2001年度大須オペラ,
メイヤック&アレヴィ作『ブン大将』台本翻訳(上)
—名古屋における演劇社会学の試み資料編

The Former Part of the Translation of Meilhac & Halévy's *La grande duchesse de Gérolstein* Prepared for the Ôsu Opera Performance by Super-Ichiza in 2001:
Documents for the Sociology of Theater in Nagoya

鎌田大資

Daisuke KAMADA

訳者のまえがき

本稿は、2017年に逝去した岩田信市の演劇における業績を顕彰するために起稿された。そのかたわら、日本における日本語での喜劇オペラ上演の資料としての活用も期待している。2018-2019年度の『青ひげ』につづき、今度は『ブン大将』上演台本構成用に作成した翻訳を手なおして公刊する(Meilhac & Halévy, n.d. [1900-1902], [1900-1902] a=2018-2019)。岩田が率いたスーパー一座による大須オペラ的一篇で、公演のタイトルと日時は以下の通り。

第10回大須オペラ『喜歌劇 ブン大将 又は
ジェロルスタンの女大公』(2001年7月
17日-8月6日)

普段は寄席や演芸の会場となっている大須演芸場で、上演されたオペラである。例年、夏はオペラ、冬は歌舞伎と、劇場を改造して公演していた。オペラの場合は通常の椅子席だが、舞台のまえの座席は取りはずし、15人

程度収容できるオーケストラ・ピットを設け、毎回、生演奏に舞台上の歌唱を合わせていた。

昨年、岩田がスーパー一座で上演したオペラ作品のうち、過去に日本で公演されていたものをリスト・アップし検討した(鎌田2020)。そのうちでも本作品は、比較的、公演回数の多い有名作である。本来のタイトル『ジェロルスタンの女大公』よりも榎本健一(エノケン)の歌唱が何度もコンピレーションに収録、復刻され、多くの日本人に耳慣れた劇中歌、『ブン大将』というタイトルで知られるようになった¹⁾。今回はオフフェン

1) 本作の公演タイトルを、周知の「ブン大将」と正式の「スーパー一座のジェロルスタンの女大公」を「又は」でつなぐ形式にしたのは、ギルバート&サリヴァン作品で、おそらく古典風のタイトルを気取るレトリックとして、二つの言葉を「又は」でつなぐ方式をまねたものと思われる。歌舞伎でもタイトルをもじり、組み合わせるやり方はよくある。ギルバート&サリヴァン作品のタイトル例、公演日時等は以下の通り。

第2回大須オペラ『喜歌劇 ゴンドリエーリ——
『ヴェニス gondola 乗り』又はバラタリアの王』
(1993年7月5日-8月1日)

第3回大須オペラ『喜歌劇 ベンザンスの海賊

バック作曲, メイヤック&アレヴィ作の『青ひげ』(Meilhac & Halévy, n.d. [1900-1902] a=2019-2019)を紹介したので, 今回はスーパー一座のオペラのもう一つの柱であるギルバート&サリヴァンを紹介すべきかと思ったのだが, このコンビの作のうち訳者の訳で上演されたのは第12回大須オペラ『喜歌劇ユートピア国株式会社 または進歩の花形』(2003年7月14日-8月3日)だけである。この作もそれなりに味わいはあるが, 有名作であるわりに, 簡単なあらすじや訳詞以外に日本語の資料が入手しにくい『ブン大将』に需要があるように思い, こちらを優先する²⁾。スーパー一座以外の講演記録は以下の通り³⁾。

- 18760429, 横浜ゲーテ座, ロネイ・ファス喜歌劇団, 『ジェロルステイン大公妃殿下』
18790607, ゲーテ座, ヴァーノン歌劇団, 『ジェロルステイン大公妃殿下』
18790901-(42日) 新富座, ヴァーノン歌劇団, 『ジェロルステインのダッチェス夫人』(黙阿弥『漂流奇談西洋劇』の劇中劇)
18850912, 横浜パブリック・ホール, マスコット歌劇団, 『ジェロルステイン大公妃殿下』
18870419, 横浜パブリック・ホール, サリンジャー一座, 『ジェロルステイン大公妃殿下』

又は義務の奉公』(1994年7月6日-30日) 第7回大須オペラ『喜歌劇 軍艦ピナフォア 又は水兵に恋する乙女』(1998年7月7日-27日)

- 2) 神奈川県図書館でのreference業務上の調査記録がインターネット上にアップロードされており, スーパー一座の公演も, 言及されている。調査年月日が2010年なので, 当時, 残念ながら主催者である岩田信市と幸子夫人は闘病中で連絡がつきにくかったと思われる。(https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000063676. 2020年11月11日閲覧)『ブン大将』あらすじは森(2017:138)などを参照。
3) 原データ(鎌田2020:13-14)には各項目の出典を明記していたが煩瑣なので省く。

- 18900925, 横浜パブリック・ホール, スタンリー歌劇団, 『ジェロルステイン大公妃殿下』
19150527-0602, 帝劇, 小林愛雄訳, 『戦争と平和』
191705, ローヤル館, ローシー・オペラ, 『ブン大将』
19170603-26?, 帝劇, 小林愛雄訳, 『ブム大将』⁴⁾
19490601-05, 有楽座, 日本オペレッタ協会, 清水静子演出, 『ブン大将』
19491106, 日比谷公会堂, 同上
20030215, 16, 日暮里サニーホール, 日本オペレッタ協会, 小林愛雄・寺崎裕則・角岳史訳詞, 寺崎裕則台本, 『ジェロルシュタイン大公殿下——ブン大将』

1867年, パリで初演された本作は, ナポレオン第2帝政下にて, 軍国主義の武ばった調子を洒落のめした作品であり, ナポレオン3世が普仏戦争で敗北, 失脚してしまった頃には, 洒落がきつすぎて上演しにくくなってしまったという(森2017:58)。日本でも明治の横浜居留地での外国人向けの外国語興行, 大正期にローシー率いる帝劇や浅草オペラ関係者による公演からあと, 第二次世界大戦が終結するまでは演じられていない。日本オペレッタ協会の公演はスーパー一座のあとでおこなわれたものだが, おそらくは戦前からの台本を手直ししての公演だったろう。

オッフエンバックの譜面は, ピアノ譜で見ても何人ものソロと男女の合唱パートが入りみだれて, 1ページに2段か1段しか入らない異様に濃密なハーモニーが情熱的に編曲さ

-
- 4) Général Boumを日本語に移せば, この「ブム大将」表記がよいかもしれない。しかしすでにエノケンにより定訳めいた表記になっているブン大将と表記する。ただしGénéralに総司令官や将軍という意味はあるが, 必ずしも大将という日本の将官名は対応していないかもしれない。

れている⁵⁾。したがって伴奏も、できればオーケストラ編成で、合唱も20名くらいは欲しいところであり、ちゃんと上演しようとするとは少人数のソリストで簡略にのどを聞かせるスタイルではすまない。

またお笑いの要素の強い作品ゆえに、フランス語の原語上演に字幕付きでは観客に笑いのツボが伝わらないだろう。だからこそ浅草オペラ以来の日本語上演を志す必要があるのだが、そのためには各種のバージョンを比較参照しながらの上演台本作りが欠かせない。

こうしたことをスーパー座で2000年から2008年までは、訳者やその家族、知人の助力を得て訳したテキストを、岩田が再構成するというスタイルで実施した。老眼でこまかい字を見るのがつらくなったなど、岩田自身の身体の不調のために劇団活動を停止するまで、1992年の第1回公演から17年、17回のオペラを上演できた。すべて日本語に訳して、親しみやすい楽しい演目を選ぶというのがポリシーだった。

本作の翻訳作業はもちろん、岩田の指示で音源、台本、楽譜をオンライン通販のサイトで検索、購入するところからはじまった(鎌田2018)。ただし前作の第9回大須オペラ『The芸者』(2000年7月13日-30日)は英語作品であり、翻訳の困難も少なかった。オフエンバック作品はフランス語で制作され、教養課程で第2外国語として履修した訳者のフランス語では心もとなく、英訳されたテキストを探したところ、1867年にニューヨークで発行された対訳パンフレット(Offenbach 1867)が見つかり、これにフランス語と英語が対訳形式で併記されていた。原文は現在はGallicaなどのサイトで公開されている『メイヤック&アレヴィ戯曲集』(Meilhac & Halévy

n.d. [1900-1902])に収録されているので、簡単にダウンロードして利用できる。しかし、翻訳作業時、その本はもちいず、Live版と表記されているLPレコード⁶⁾の対訳のリブレットと、上記のパンフレット、ほかに現状では発見できないCDの対訳テキストを合わせて検討した⁷⁾。

したがって、今回、訳文の構成にあたり、大部分を1867年の対訳パンフレットに依拠して訳したものを、ほかの対訳を補って再編集し、最終的に、『メイヤック&アレヴィ戯曲集』版の原型に戻すという形で作業する(以下、各版をパンフ版、CD版、LP版、戯曲集版と表記)。時系列的には戯曲集版がもっとも原型に近く、パンフ版は年号によれば、初演時に作成された対訳版ということになり、CD、LP版は1977年ごろの上演でもちいられ、初演から100年以上を経た上演版ということになる。幕数は戯曲集版と独仏語併記のピアノ譜版が4幕、ほかは3幕である。ただしパンフレットの発行年は初演と同年なので、初演時から3幕に整理して上演が始まったのかもしれない。

第13回大須オペラ『山賊』(2004年7月13日-8月1日)や第15回大須オペラ『青ひげ』(2006年7月11日-8月1日)と違い、本作には不思議と海外での原語上演に字幕を入れた映像ソフトも市販されていないようで、その意味でも芝居自体の内容に近づきにくい。その意味でもこの翻訳が日本のオペラ受容の

6) 当LPは、公演用の編曲にもちいた独仏語歌詞併記のピアノ譜同様、愛知芸術文化センター内のアートライブラリーに所蔵されている。この図書館の調査は、当時、岩田幸子夫人が担当し、訳者自身は詳細を把握せず手渡されたコピーで作業したので、今回の訳稿作成のために改めて確認した(Offenbach 1967, 1977, [1977] 1996)。

7) もう1枚(Offenbach [1977] 1996)は、完全版初CD化(Première en CD, version integrale)と記されている。

5) たとえば本訳稿的一幕フィナーレでの、男女ソリストと合唱の歌詞の重なり具合を参照。

歴史の一助になればうれしいが、音楽や芝居抜きで台本だけ読んでも、実はそれほどおもしろくはない。できればCDや配信、DVDやyoutubeで名曲の数々を聞き、原語歌唱の映像を見ながら読むと楽しさの一端が伝わってくるかもしれない⁸⁾。

女大公というのは大公国の女性君主であり、実質的には女王であろう。モデルはロシアのエカテリーナ2世というから、日本人にとっては、アリューシャン列島のアムチトカ島に漂着した大黒屋幸太夫が、苦勞の果てに謁見し、帰国を嘆願した人物である。夫を暗君としてクーデターで退けて戴冠した英明な啓蒙君主だが、ジェロルスタンの女大公の場合は、国に君臨する身でありながらイケメン二等兵のフリッツに心を寄せて、えこひいきのあまり大将にして軍の指揮権を与える。任を解かれたブン大将、女大公の花婿候補であるさえないポール王子、また国を牛耳ろうとする官僚たちのたくらみもあり、フリッツ暗殺計画が進められるが、女大公もその計画を知り、たいへん意外な方法でブン大将が復讐を遂げ、全員が元のさやに納まって大団円となるという「喜劇」である。言ってしまうとこれだけのお話だが、ストーリーの展開と関係ない装飾的な曲に名曲が多く、そこでは話の進行が止まるような感じになる。とはいえ、それも、話の途中で、突然、踊りはじめて1カットごとに衣装や背景を変えて、音と映像の熱狂を伝えるインド映画のモンタージュと同じ

8) 訳者の訳文は上演台本を構成する岩田が全体の意味を知り、楽譜の各行に歌手が歌えるよう一音符に日本語の一音を当てはめる訳詞をつけるための実用的なものであり、なるべくスーパー座で上演しやすいような時代劇調、やさしく砕いた歌舞伎調を取り入れた。日本でいえば江戸時代に当てるお話なので、それはそれで正当なことでもあると考えている。ただし今の目で見ると、パンフ版等のト書きが原典を省略した形で収録されているため、とんでもない誤訳もあり、適宜、修正を試みた。

ようなものだと考えるべきだろう。また訳者の学生時代、宝塚版の手塚治虫原作『ブラック・ジャック』⁹⁾を見に行った際には、ヘリコプターで降りたったブラック・ジャックが、いきなりジャズ・ダンス風に腰をくねらせながら踊りはじめて度肝を抜かれた記憶がある。オペラやミュージカルというのはそういったものであり、そこを楽しまなければ、この時代に生まれて日の光を拝んだ甲斐がないというものだ。楽しさが伝わらないのは読者に気の毒でもあるので、本文の進行に合わせ、注などで見どころやスーパー座公演との異同も少しお伝えする。

ジェロルスタンの女大公 4幕の喜歌劇 (opera-bouffe)

1867年4月12日にパリのヴァリエテ座にて初演。

ジャック・オッフエンバック楽曲

登場人物¹⁰⁾

女大公
フリッツ
ポール王子
ピュック男爵
ブン大将
グログ男爵
ネボムク、副官 (aide de camp)
ワング、農家の娘
イーザ
アメリー
オルガ
シャルロット

} 女大公の侍女

宮廷の貴顕淑女たち、侍女たち、二人の小姓、

9) 1994年『ブラック・ジャック 危険な賭け』(宝塚歌劇団花組、安寿ミラ主演)。

10) 原典では、ここに初演時キャストが記されているが、本稿では特に言及しないので省略。森(2017: 61)なども参照。

二人の衛兵，女大公の兵隊，従軍酒保のおかみたち，農民男女

舞台は1720年かそのちょっとまえ。
ドイツ風の衣装に，お好みの夢を加味すべし。

第1幕

(兵営。田舎で中央に天幕を張っている。上手中景にはブン大将の天幕の入り口。下手，前景には，酒保〔兵士たちの食堂〕。後景には実際に使用できる丘を模した通路が，舞台中央に上手から下手に，ついで下手から上手に¹¹⁾上がっていく。後景の銃架に〔兵隊用の〕小銃。)¹²⁾

第1場¹³⁾ 兵隊，農家の娘たち，従軍酒保のおかみたち (Vivandières)，やがてフリッツとワンダ。

Nr. 1¹⁴⁾ 合唱

その時が来るまでは，
雄々しい戦いのその時が来るまでは，
歌おう，飲もう，がんがん飲もう
それが兵士のモットーだ

11) 原文では単純に右，左と表記されているが，戯曲翻訳らしく演劇用語で上手(かみて)，下手(しもて)と訳す。「じょうず」，「へた」とは読むべからず。

12) ト書きは戯曲集版では，ポイントを下げて表現しているが，本稿ではカッコ()に入れた。序曲の途中で幕が上がリ，この動作を見せるのが普通の演出だろう。本稿では本文理解のために引用者が補った字句を[]に示す。

13) シェイクスピアの戯曲同様，役者の出入りごとに場分けしてある。場面割りごとに登場人物を整理した香盤表を作成しやすくする工夫か。ただしパンフ，LP，CD版などではこの「場割り」は消滅する。

14) 曲番号はドイツ語版のピアノ譜によるが，戯曲集版には記載されていない。邪魔にならないと考えて残した。楽曲の種類はドイツ語表記であり，クプレットはフランス語ならクープレとなる。

歌おう，
飲もう，
遊ぼう，
踊ろう！
その時が来るまでは，雄々しい戦いのその時が来るまでは，

(合唱のあいだ，兵士の何人かは農家の娘たちとワルツを踊る。太鼓を台にしてカードやサイコロで遊ぶ兵も，飲んでいゝる兵もいる。酒保のおかみはあちらこちらと行き来する。活気ある一幅の絵のように。奥から下手へフリッツとワンダ登場。二人は舞台中央に進む。)

ワンダ ああ，私のフリッツ，出発のお話を聞くなんて，悲しいことね。

フリッツ さあ，ほくは奇跡を起こすぞ。
すぐにも戻って来るんだから。

Nr. 1 b Couplet (Fritz) und Walzer フリッツのクープレとワルツ

さあ，娘さん方，
踊ろう，回ろう。
あなた方は家で安全。
だが，われら哀れな男どもは，
もう行かねばならん。
わずかな給料で，
大砲に立ちむかうのだ！…
不幸な運命が避けられないなら，
あんたがたとえられる時間を
楽しもうよ。
勇敢な兵士のように，
杯をほして，
それが最後の一杯なら，
ねえ君，お気の毒様！…
ああ，美しい娘たちよ！
勇敢な若者たちよ！
回ろう，ワルツだ，

ワルツだ、回ろう、
コマみたいにな、
ブンブン言わせる
回ろう、ワルツだ、
ワルツだ、回ろう！

皆 ああ、美しい娘たちよ！など

(リフレインでワルツを踊る。)

II

フリッツ 武器を取り

出発するぞ、
泣き声と涙と
気絶があふれる！
でも大丈夫、きれいな人！
手紙は書くよ。
報せを見ても
平常心で乗り切れるさ…
留学のあいだもな。
でもしばし、
杯干して、
キスをしようよ。
それが最後の一杯なら、
ねえ君、お気の毒様！…
ああ、美しい娘たちよ！
勇敢な若者たちよ！
回ろう、ワルツだ、
ワルツだ、回ろう、
コマみたいにな、
ブンブン言わせる
回ろう、ワルツだ、
ワルツだ、回ろう

皆 ああ、美しい娘たちよ！など

(ワルツの繰り返し。ワルツが最高潮に達する時、ブン大将が上手の丘より登場。彼は立ちどまり怒って、腕を空に振りあげる。彼の帽子には、途方もない羽飾り

がそそり立っている。)

第2場 前場と同じ、ブン大将。

ブン大将 (前景に進みでて) 野営地に女など！ 不埒千万！…

(女たちは、皆、大声を上げながら、上手へそして下手へと逃げまどう)

フリッツ (最前列にいて脇セリフ) ほうら、やな奴が来たよ！…

ブン大将 (まえに進み) 兵士たちよ、お前らは慎みってものをなくしちゃったのか？

フリッツ 兵隊だからって、何も感じないわけじゃないでしょうに？

ブン大将 (フリッツに近寄り) またお前がしゃべっておるのか！

フリッツ しかし、大将閣下！…

ブン大将 静かに！

わしが怒ったら、皆黙るのだ！

わしの厳格さは知っておるはず。

合唱 大将閣下が怒ったら、皆黙るのだ！

閣下の厳格さはよく知っている。

Nr. 1 c Couplet 小唄¹⁵⁾

ブン大将

I

ブン大将 馬にまたがり、規律を保って、

谷を超え、

眼下の敵の大隊は、

皆殺し！

どんなに誇り高い敵も、

臆病に震えあがり身を隠す。

15) 有名なブン大将の歌。エノケンが歌う「野でも山でもみんなどンドン乗りこえて」「敵はわしを見るとどンドン逃げだすぞ」といった歌詞は原曲の大意を取って換骨奪胎したものとわかる。なお、「タラババブン」は実際には「タラバババブン」とパを一つ増やして歌う。

わしの軍帽の
 ひらめく羽飾りを見たらな！
 ピフ パフ プフ タラパパブン！
 わしの名前はブン！ ブン大将！
 皆 ピフ パフ プフ タラパパブン！
 彼の名前はブン！ ブン大将！

II

ブン大将 いくさが終わり、酒場に戻れば、
 元気回復。
 一番の美人の
 最高のもてなし。
 ニコニコ笑って、
 口髭を撫でてくれる…
 そんな時や、羽飾りも
 邪魔っけだね。
 (華やかに)
 ピフ パフ プフ タラパパブン！
 わしの名前はブン！ ブン大将！
 皆 ピフ パフ プフ タラパパブン！
 彼の名前はブン！ ブン大将！
 皆 ブン大将万歳！

ブン大将 もうこんな時間か！ わしは下がるぞ、こどもたち、われらが主君、女大公殿下の雄々しい兵隊どもよ！
 皆 女大公殿下万歳！
 ブン大将 気持ちいい連中じゃわ、しかしフリッツのおかげで台なしだ。
 フリッツ (脇セリフ) ほら！ お小言はいつもおればっかりだ！…
 ブン大将 2等兵フリッツ、参れ。
 フリッツ (近づきながら) 大将閣下…？
 ブン大将 情けない兵隊め！…
 フリッツ こうなりましたのも、もとはと言え…
 ブン大将 (眉をしかめ) 何を申す。
 フリッツ こうなりましたもとは…女どもか

ら出ましたことでございます。
 ブン大将 何ごとじゃ…
 フリッツ 閣下がワンダ嬢に求婚なさったからでして…
 ブン大将 それはない！
 フリッツ 恐れながら…閣下があの娘に申しこみをなさいましたが、あれが閣下になりかぬわけはと言えば、それはわたくしに恋しておるためでございます…というわけで！…
 ブン大将 (脇セリフ) ぬぬう大激怒！
 フリッツ 女どもは悪趣味でございます、年取った將軍よりも若い兵隊の方を好むとか。
 ブン大将 営倉行きを命ずるぞ！
 フリッツ 何のそれくらい。
 ブン大将 銃殺させてやる！
 フリッツ 何と悪辣な！
 ブン大将 情けない兵隊じゃ！…
 フリッツ 情けない兵隊と言われてもどうでもよろしいが…悩みのタネは…このわたくしの男前…
 ブン大将 口を慎め！…
 フリッツ 黙っております…かといってお気持ちりが済むこともありますまい！…
 ブン大将 そんな小娘のことはまったく眼中にないぞ。
 フリッツ 心からおわびを申し上げます…あの娘にお心をかけたのですな。
 (奥から上手へ、ネポムク登場。)
 第3場 前場と同じ、ネポムク。
 ネポムク (ブン大将に) 將軍！
 ブン大将 (熱をこめて) 敵の襲撃を告げに来たのか。どうかそう言ってくれ！
 ネポムク 違います、將軍…女大公殿下が連隊を閲兵に見えると伝えに参りました。
 ブン大将 ものども、聞いたか！…

ネポムク 殿下のテントは飾りつけて…この
…兵どもの野営地のまんなかにしつらえ
よとのお望みです。(奥から上手へ退
場。)

ブン大将 急げ…歩哨を一人立てる！…フ
リッツ 2等兵！…

フリッツ (脇セリフ) いつもおれだよ！…
(大きく) 大将閣下…

ブン大将 お前、ここで歩哨に立て…

フリッツ こんな真っ昼間から…ごもっとも
でございます！

ブン大将 口答えするな！

フリッツ そもそも、どうしてわたくしが歩
哨に立つのでございますか。

ブン大将 女大公殿下のテントを守るため
じゃ。

フリッツ ですが、テントはまだ張られていま
せんが！…

ブン大将 テントを張る予定の場所を見張る
のじゃ…

フリッツ おお、誰も地面をとっていかない
ようにするのですね…ちょっとは常識で
考えてもらいたいもので！

ブン大将 いつもいつも口が減らんな、ああ
…

フリッツ わかりました！…わかりました！
理由は存じてますよ…女です…ほら！…
女ですよ！…

ブン大将 いくさの前に戦力を消耗するのを
わしが恐れておらなければ、お前なんぞ
銃殺だ！

フリッツ でも！…いくさの前に戦力を消耗
するのを恐れておられるのですね…

ブン大将 だからこそ、最後のことは控え
ておるのだ、ああ…

フリッツ そうですとも、まさかそれは！…

ブン大将 だからこそ、これ以上、言いはる
とわしの方が馬鹿を見るというわけじゃ

…兵ども、整列！(太鼓の音。兵隊は銃
を取り、奥に二列で並ぶ。並び終わった
ところで) になええ…銃(つつ)！…

(フリッツは隅の銃架から銃を取り、下
手寄りの酒保の近くにおいて、情景すべて
から距離を取って眺めている。)

フリッツ (兵隊が整列したとき、ブン大将
に) あれ、今度はどこへおいでです。

ブン大将 ああもう、たくさんだ！…それが
お前に何の関係がある？ わしの動きを
全部、説明せにゃならんのか！…兵ども、
左向け、左っ！…前へ…進めっ！

合唱 ピフ パフ プフ タラパパブン！
先頭歩くはブン！ ブン大将！

(兵隊、奥から上手に退場。フリッツは
歩哨のまま。行進のあとでブン大将はフ
リッツに近づく。)

ブン大将(フリッツに) うう！ 悪たれめ
が！(自分の軍隊に追いつくために、
走って退場。)

第4場 フリッツ(一人で歩哨に立つ)。

フリッツ 毎度のことながら何て意地悪なん
だ、顔を見せる度に、將軍にうまく答え
られない哀れな若い兵隊にしかめ面をし
て見せるのだ！…理解したくもない話だ
よ！ ああ！ 地位や名誉がある將軍た
ちはこんなもんだ…それで女どもを引き
つけられるとお考えだ…女どもは、地位
はなくても…かわいげのある若い兵隊の
方が好きなんだ…だから年とった將軍は
若い兵隊をいじめなさる…いつもいつ
も、こんなことがつづくのさ。この世の
つづく限り…それにさ！…いつでも…女
がもめ事のタネだ…こればかりだよ！
…(下手に頭を向けて) ああ！ 来たよ、

かわいいワンダが！…おれが駆けて行って彼女を出迎えると思ってるんだろな…ああ！ そうできればなあ！… おれがあっちに行かないので、あの娘の方から来るんだよ…来るんだよ…（ワンダ下手から登場。奥でしばしたたずむ。）これを見れば、あのかわいそうな年とった將軍はどんなに腹を立てるだろう！…（彼は銃を手に動かずにいる。）

第5場 ワンダ，フリッツ。

Nr. 2 Duett 二重唱 ワンダ，フリッツ

ワンダ（フリッツから遠く離れて）ほら、ここよ、フリッツ！…あんまり走ってきたので、ほんと、息が切れちゃった！

（少し近づく。）

でも、こんなにつっけんどんにするなら、走ってくる値打ちはなかったわ。

教えて、

どうして。

（フリッツ、小銃を指さし、指を唇に当てて、任務中でしゃべれないことを示す。ワンダもっと近づき、言葉をつづける。）

I

何でそんなしかめっ面なの…

近づいても氷みたい！…

おしになったの、立派な擲弾兵さん。

身振りでしか愛を伝えられないの。

フリッツ（身じろぎもせず立ったまま）違いない、ほんと。命令で、

ああ、しゃべれないのさ。（下手に動く）

（ワンダ、フリッツに絶えず近づきながら）

II

ワンダ 冗談はやめて。恋人の姿を見たら、

何でも忘れちゃうはずでしょ…

はやく何か言って、引っかくわよ！

フリッツ（ずっと動かず）無理だ。命令で、
ああ！動けないんだ。

一緒に

フリッツ 無理だ。命令で…など

ワンダ 駄目だというのね、命令だから、

まあ！動くのも禁止だなんて。

（フリッツは上手に戻る）

III

いいわ、あなたのために正気を失って

こう言ってあげる。「ねえ、大きな子猫

ちゃん、

すぐこっちに来てキスしてよ」、

あたしに名誉の負傷をさせてくれるの…

フリッツ（小銃を上手に置き、ワンダの方に熱烈に向かってくる）

ああ、でも信念にかけて無理だ！命令でキスしちゃだめなんだから。

ワンダ（陽気に）キスさせない命令なんて

あるはずないわ！

一緒に

フリッツ だめ、ワンダ、だめだ。命令で

キスしちゃだめなんだから！

ワンダ キスさせない命令なんて

あるはずないわ。（フリッツ、キスする）

一緒に

命令なんてクソくらえ！

恋よ、万歳！

悪かったね！今日は…

命令には立ちむかおうよ、

恋に従うのだ！

（フリッツ再びワンダにキスする。その時、ブン大將が奥から上手に入場。飛びあがりながら）

第6場 ワンダ，フリッツ，ブン大將。

ブン大將（キスしているのを見て）あああ！

つかまえたぞ！
フリッツ (小声でワンダに)つかまったぞ！
…(元氣よく銃を取りなおし歩哨の姿勢に戻る。)
ワンダ (震えながら)フリッツちゃん！…
ブン大将 (フリッツに)わしは軍の作戦としてお前を歩哨に立たせたのじゃ…何もかもお前を引っかけるため…引っかけてやったぞ…
フリッツ ほれ！さぞ、お楽しみでしょうとも、作戦が成功したのはこれが初めてじゃなかったでしたっけ！
ブン大将 哀れな奴！…
(舞台の外で銃声が聞こえる。)
ワンダ (フリッツの腕のなかに倒れこむ。)
ああ！
フリッツ ワンダちゃん！
(ワンダは彼の腕で気を失い、彼はそれを支える。)
ブン大将 あれは何か…何が起こったのだ。
フリッツ 襲撃でしょう。彼女を母親のところへ連れて行ってもよろしいですか。
(第2の銃声が聞こえる。)
ブン大将 よし…行け…十分に注意せよ。
フリッツ ああ！ よく聞きわけていただきました、大将閣下…閣下もこの娘を愛しておられるのですね！…
ブン大将 行け！… 行け！…
フリッツ (ずっと支えているワンダに)さあ、気つけ薬(schnaps [ちょびっと飲むきつい酒])でも一杯やろう。
(彼らは酒保に入る。外で新たに銃声。奥から上手にピュック男爵登場。彼は慌てて走り入り体を二つ折りにする。)
第7場 ブン大将、ピュック、やがてネポムク。
ピュック ああ、親愛なるブン大将よ！…

ブン大将 どうしたというのだ。
ピュック 合言葉を尋ねられてね… すっかり政治のパズルに気を取られていて、答えずにいると…
ブン大将 パン、パン、ラタパン！っか…
ピュック パン、パン、ラタパン！と…わしに向けて撃ってきおったのだ…
ブン大将 兵どもの義務をだからな…
ピュック 幸運にも弾はわしをはずれおってな…
ブン大将 なら罰を与えねばなるまいて…
ピュック 何とおおせられたかな。
ブン大将 お主を撃ちそこなってはならんと申したのだ。
ピュック そんならあなたはわしが撃たれたら良かったと言うのか…
ブン大将 もちろん將軍としてはな…だが、友人として、もしそうなれば気の毒せんばんじゃ…
ピュック (手を揉みしだきながら)それで安心！…
ブン大将 何かいい話でもあるのかね…
ピュック 扱い方の難しい話だが…わしらの慣例として、出撃の前夜には兵どもを元気づけ士気を高めることなら何でも怠らずおこなうことは知っておろう…
ブン大将 もちろん！…
ピュック 今度、考えたのはなかなか巧みな工夫じゃぞい…女大公がお見えになるが…
ブン大将 存じておる。
ピュック あの方が兵どものまんなかに陣どって、おつきになられたら、お主は御前ま近く連隊の歌をご披露なさるのじゃ。
ブン大将 そうだな！…
ピュック 殿下は「あら、その歌なら知ってるわ…」とお答えになって、自らその歌をお歌いになられる。

ブン大将 御前みずから。

ピュック 御前みずからじゃ… それも、ルドルフよ、お主と一緒に御前様はお歌を歌われるのじゃ！

ブン大将 わしとか！… 何たる光栄！… じゃが、殿下はまことにその歌をご存じか…

ピュック ばっちり御存知じゃ…わしらで、今朝、2時間もかけて予習したでな。

ブン大将 それならわかる。

ピュック 細工は流流じゃ！…さて、今度はわしらの作戦じゃが…（かぎたばこを一つまみ勧める）かぎたばこはおやりかな…

ブン大将 それだけは苦手でな…（ベルトから2連式の拳銃を抜いて空に向けて撃ち、そして煙をあげる銃身の一つずつ両方の鼻の穴にあてて、力いっぱい火薬のおいを吸いこむ。）これがわしの鼻薬 [civette, ジャコウネコの意] さね！¹⁶⁾

ピュック お主、どうして今度の戦争をしakerることになったか知っておるか…

ブン大将 わしか …全然、知らん！

ピュック 教えてやろう… 女大公はわしらの主君であり、わしの生徒でもあるが… というのは、わしはあの方の教師じゃでな…（うやうやしく帽子を脱ぎ、それを眺めながら怖気づいたように言う。）ああ！ 友よ！…

ブン大将 どうしたのだ。

ピュック （ほとんど気絶しかけながら、帽子に開いた大きな穴を見せる）見てくれ！ 弾が！…

ブン大将 （満足して）ほい！連中もそれほど射撃が下手なわけではないからのう。

ピュック こりゃ一歩間違うと危ないことじゃった…帽子をかぶっておってよかったわい！…これがなければ死んでおったろう…

ブン大将 さっさとかぶり直せ。

ピュック （帽子をかぶり直す。）ああ！ そうそう！…また撃ってきたらことじゃわい…しかし、われらが主君にしてわしの生徒たる女大公の話じゃが、あの方も20才におなりじゃ…これまではわしらの手に権力をゆだねて下されていたのじゃが、ちょっとまえからあの方がそわそわして上の空でおいでになることにわしは気づいたのじゃ…わしは自分に言った。「…ここに退屈しているご婦人がおる…何か楽しませてあげられるものを探さねば…」そこで、わしは宣戦を布告した、とこういうわけじゃ！…

ブン大将 さすがに巧みなお手なみじゃわい！…

ピュック じゃろうが…わしは生徒が楽しむものを…いつでも見つけてきた…おもちゃだとか…あの方が小さい時には…じゃが、過去にこだわってものを考えるのはいかん…近ごろでは、他のものでなければならん…わしがあの方の婿探しをしておるといことがあの方の楽しみになっておるのじゃ…

ブン大将 ポール王子か…

ピュック さよう…しかしこの不幸な王子は、それゆえにうってつけだったのじゃが、それ以外はまったくの無内容で、何の効果も上げてはおらん。女大公は彼を

16) 拳銃の火薬をかぎたばこ代わりに吸うという描写は、勇ましさと通りこして変態的な軍人らしさの表現だと思うが、このト書きがパンフ版等では省略されていて2001年当時は不明だった。CD等の録音ではフリッツとワンダの場面の後、直結で女大公の出の場面となり、歌で芝居をつなぎインパクトを高めている。スーパー一座でも、その方式を採用して効果を上げていた。ちなみにポール王子の後見人、グログ男爵はスーパー一座公演では登場しなかった。[]内は文意を補うための訳者による補足。

めとる決意ができておるのじゃ…この6か月間、彼女はあの方を連れまわしてきた…8日まえ、この若者の父親たるシュテイスーシュテインーシュテイスーラペルードゥボットモールーショルステンブルク選帝侯〔神聖ローマ帝国の皇帝の選挙権を持っていたドイツの君侯〕が、その最も有能な外交官の一人、グログ男爵を、われらが愛すべき女主人に決心をさせ、〔結婚の儀式に〕神聖な「はい」を言わせようとする使命とともに送りこんできたのじゃ。われらが愛すべき女主人は、公式にはグログ男爵の受けいれを拒絶しており、屈辱な気持ちのままおる…この戦争で、少しはあの方の気がまぎれるといいのじゃが。

ブン大将 それならわしに任しとけ。

ピュック 残念ながら、この気ばらし〔戦争〕はちょっとしかつづかん。王女様も20才におなりになったし…すぐに他の楽しみをお求めになろう…お心を打ちあげられることこそまだないが…それとも間もなくじゃろう…その時こそ、よほど気をつけてかからんとわれらの身の不運を招くことになるのじゃわい！

ブン大将 怖くなってきたぞ…

ピュック もし王女様がお気に入りを持ちたいという考えを起こせば、わしらがどうなるか、お主、一度でも考えたことがあるかや。

ブン大将 わしらは御払い箱じゃ！…あの方にそうさせては断じてならん！

ピュック 断じてならん！

ブン大将 断じてならん！…(やや遠い太鼓の音。奥から上手にネポムク登場。ブン大将はネポムクのまえに立ちふさがる。愛をこめてネポムクに) 敵襲！…敵襲じゃ！

ネポムク 違いますぞ、將軍！…殿下のおなりのです。

ブン大将 ならばよし…全隊、武器を取れ。

ネポムク はい、將軍。(奥から上手に退場。)

ピュック ではおわかりじゃな、まずは連隊の歌…8日以内に大勝利！…

ブン大将 そしてわれらが焔端に集合じゃ！…

ピュック わしら二人に権力をじゃ！

(一緒に) わしら二人に権力をじゃ！

(軍隊、奥から舞台上手に到着。太鼓手とラッパ手を先頭に、下手前景から上手奥まで斜めの線をなす。ワングを含む農婦たちは両側から入場し、奥の実際に登れる丘のうえ、兵隊のうしろにとどまる。フリッツは隊列のなかにいる。ピュックは上手に歩く。)

第8場 前場と同じ、兵隊、フリッツ、ワング、農婦たち、やがて女大公、イーザ、オルガ、アメリーとシャーロット、ネポムク、女大公の参謀部。

Nr. 3 Chor und Rondo 合唱とロンド (女大公) 兵士たち&農婦たち

担え銃！捧げ銃！

なおれ、かしら、右。かしら、中！

女大公はなんてチャーミング！

女大公はなんと美人！

担え銃！捧げ銃！

なおれ、かしら、右、かしら、中！

(軍楽隊の音色とともに、奥より上手に女大公が入場。乗馬服に身を包み、手には乗馬用ムチを持つ。連隊の制服を着用。背後には女大公と同じ乗馬服と連隊の制服に身を包んだ侍女たちと、きらびやかな制服に身を包んだ若い士官からなる華やかな姿の参謀部が従う。全隊捧げ銃を

している。女大公は連隊の前を奥から上手へ閲兵し、そして下手の舞台前面に到着。彼女はフリッツの美しさに打たれる。彼はまったく小柄な兵隊二人にはさまれて舞台前面に並んでいる。セリフなしのパントマイム。フリッツは女大公のまなざしに当惑する。女大公は、苦勞して何とか気持ちを取りなおし中央に来る。)

Nr. 3 a Rondo ロンド

女大公 ああ！軍人大好き！
 粹な制服、
 口髭に羽飾り！
 ああ！軍人大好き！
 勝ち誇った態度、物腰！
 すべてがわらわの好み！
 出陣の装備整えた
 兵士たちを見ると、
 なおれ、かしら、右、かしら、中、
 神様！ほんとに誇らしい！
 勝つかしら、負けるかしら…
 わからないわ…わかっているのは…
 (合唱) わかっているのは…

女大公 わかっているのは、
 軍人大好きってこと。
 粹な制服、など。
 なりたいものもわかってる…
 わらわがなりたいのは、酒保の店員！
 いつも兵士たちの側にいて
 そして彼らを酔わせるの！…
 彼らと一緒に、けなげに、軽快に。
 戦闘にも突進よ！
 いくさは、わらわの気に入るかしら…
 わからないわ…わかっているのは…
 (合唱) わかっているのは…
 女大公 わかっているのは…
 軍人大好きってこと。

粹な制服、など。

全隊 女大公殿下万歳！

(号令で全隊担え銃をする。)

女大公 (ブン大将に) 結構ね、將軍…ほんとに結構ですわ…(何歩か歩き、フリッツを見て立ちどまる。) 將軍…
 ブン大将 (うやうやしく) 何でしょう、殿下…

女大公 あの兵士をまえに来させて…

ブン大将 (フリッツの上手にいる兵に呼びかける。) シュワルツ！

女大公 その者ではないわ。シュワルツじゃないのよ。

ブン大将 (フリッツの下手にいる兵に呼びかける。) シュマッカー！

女大公 ちがう、シュマッカーでもないわ…別の人よ…(ブン大将、フリッツを指す) そう、あなたよ！

ブン大将 (いらいらと小声で) フリッツ2等兵、3歩まえへ！

(フリッツ、3歩まえへ出て捧げ銃をする。)

女大公 (フリッツに) お前の名は。

フリッツ フリッツです。

女大公 何回従軍したの…けがをしたのは何度。

フリッツ 従軍したことはありません…けがもありません…ですが、昔、リンゴを盗もうとして塀を登ってけがをしました…ですが、それを勘定に入れていいかどうかわかりません…結局のところ、けがはありません、けがはなしです。

女大公 兵卒なの。

フリッツ 兵卒であります。

女大公 伍長にしてあげます。

フリッツ ああ！…

(彼は奥の農家の娘たちの最前列にいるワンダに何歩か近づく。)

ブン大将 (彼を押しとどめ) 不届き千万!
…

フリッツ 結構なご沙汰, お受けいたします
…(列に戻る。)

女大公 どこへいこうとしていたの…

フリッツ 伍長になったと恋人に話しに行く
んです。

女大公 ああ!…そうなの…

ブン大将 そうなのか…

女大公 (フリッツに) 恋人にはこう話して
あげなさい。あなたは軍曹だって…(ブン
大将に) 隊列は崩しなさい, 将軍。

ブン大将 隊列崩せ!(兵隊, 指示に従う。)
解散…

女大公 どうして解散するの? わらわの兵
隊, わらわの子どもたちでしょ…

ピュック (小声で, 女大公に) さようです
とも, 殿下, まことにさようです!

女大公 (兵隊に) とどまりなさい, 友よ,
とどまって, 少しお話をしましょう。
(兵隊は少し中央に近づく。農家の娘た
ちは半分は上手, 半分は下手に分かれ,
後ろに下がる。女大公は酒保の店員が
持ってきた大太鼓の上に座る。侍女たち
は, 女大公のそば近く, 兵隊が持ってき
てくれた折りたたみ椅子に座る。この動
作の間にピュックはブン大将の近くに行
き, フリッツは銃を奥において, 上手に
出てくる。)

ピュック (小声で, ブン大将に) 殿下があ
の兵をやけに粘っこく眺めまわしていた
ことにお気づきか。

ブン大将 (小声で) うむ…しかし, いくら
なんでも考えられんぞ…

ピュック (小声で) あらゆる事態を想定し
てかからんといかんぞ…わしは女大公の
教師だったし, 何でも好きなことをさせ
てきたのじゃ。

ブン大将 (小声で) ああ何たるちゃ!…し
からば, しばし様子を見よう。

ピュック (小声で) 様子を見よう。(ブン大
将の下手に来る)

女大公 (上手にいるフリッツの方に向き)
お前, もそっと近う。

フリッツ (近づきながら) はい, 殿下!

ピュック (小声で, ブン大将に) またもや
だ!…おわかりか…

ブン大将 (小声で) ふむ, わかった…(フリッ
ツを見ながら脇セリフ) 目にも物見せて
やるぞ!

女大公 (フリッツに) さて, お前の恋人は
喜んだかえ?

フリッツ とても喜びました。

女大公 それにお前や…お前の仲間は…喜ん
だかえ?

フリッツ そうですね, うーん!…おわかり
でしょうが, 殿下…喜ぶ奴もいるしそう
でない奴もいると…人間なんてそんなも
のですよ。

女大公 食事はきちんと出るかえ?

フリッツ ええ, そりゃ, 出ます…足りない
わけじゃ…いもならどっさり…大丈夫,
足りてます。

女大公 士官たちはどう, 部下にはやさしい
かえ。

フリッツ 士官の方ですか。そりゃ, とても
…いい人もいればそうでないのものと
…とても厳しい将軍がおります…

女大公 ほんとうかえ…

ブン大将 しかし, 殿下…

女大公 彼に話させなさい。

フリッツ その将軍はとても厳しいんです!
…でも理由はわかってるんです…女のこ
とがもとでこうなったんです…他でもな
い…女のことですよ…

女大公 どういうこと…

ブン大将 ああ！ここでおとめいたしましよう…

女大公 ブン大将,この者に話させるように、お前に命じます。お前が言うのは…

フリッツ とても厳しい將軍になったわけは彼がわたしの恋人に結婚を申しこんで、彼女は彼を散歩に出した [袖にした] というわけです。

女大公 ああ、そう！でも、みんなお前の恋人に恋するのにかえ…その娘はそんなにかわいいのかえ！…

フリッツ (ワンダを指し) ほら、あっちの方にいるかわいい娘ですよ…

女大公 ここに来させるように。

フリッツ ええ！ワンダを！…あの娘はいやがりますよ…おいで…臆病なんですよ…おれたちみたいな若い兵隊のようではないんですよ…

(ワンダ, 進みでて女大公のまえにかしづく)

女大公 この立派な若者はおまえを愛してるのかい…

ワンダ (おずおずと) そのようですわ, 上様。

女大公 そしてお前もこの者を愛しておるのか。

ワンダ おお！そりゃあ、もちろんですわ！

女大公 ほんとうかえ… (脇セリフ) あら！わらわのこの気持ちは何かしら… (フリッツに) お前は少尉だと言ったっけね。(侍女たちと同じように立ちあがる。ワンダは元の場所に戻る。)

フリッツ いいえ, 殿下。

女大公 ならば, 今, そう言おう。

(皆, 驚く)

フリッツ これはこれは, ありがとうございます。

ピュック (小声でブン大将に) いい気なもんじゃ！いい気なもんじゃ！

ブン大将 (小声で) 静かにしておれ, この少尉, 明日にも前衛部隊に配属してやる。

女大公 ここは暑いわね。(侍女たちに) のどが渴かないかえ, ご婦人方。

イーザ はい, 殿下。

女大公 わらわもじゃ。

ピュック (いんぎんに) シャーベットの届けさせましょう。

女大公 何でシャーベットの話なんか。わらわは兵どもの飲んでおるものを飲むぞよ。

ブン大将 しかしあの者どもが飲んでおりますのは…

女大公 酒保のおかみがついで回っておるものじゃな, もちろん！(下手にいた酒保のおかみに) さあ, 近う寄れ, 酒保のおかみさん, わらわにもグラスをもて…(酒保のおかみ近寄って女大公に小さなグラスでつぐ。) 縁までな…そなたらの勝利のために飲もう, 兵たちよ, そなたらの帰還のために飲もう…

(グラスを干す。別のおかみが侍女たちにもつぐ)

皆 女大公殿下万歳。

ピュック (小声で, ブン大将に) わしの生徒をご覧じろ！いい気なもんじゃ！

ブン大将 (小声で, ピュックに) お歌の時間がやって参ったようじゃ。

ピュック (小声で) わしもそう思う。

ブン大将 (女大公のまえに進み) よろしければ殿下, われわれに混じって兵どもと時間を過ごすという榮譽を施して下されたついでに, 連隊の歌をお聞きになりたいくはございませんかな。

女大公 (脇セリフ) ああ！素敵…(ピュックを見て, 大きく) じゃが將軍, わらわはこの歌を存じておるぞえ。

ブン大将 (驚きを装いつつ) そんなことが

あり得ましようかな、殿下。

女大公 あり得るのよ。お望みなら、わらわ
自ら歌って見せてもよろしい。

ブン大将 おお！ 殿下！…

女大公 さあ、始めましょう！

ブン大将 (歌う準備をしながら) ふん！え
へん！

女大公 お前はわらわと歌うつもりかえ。

ブン大将 殿下のお許しを賜りまして…

女大公 全軍総司令官ともあろうものが！…
すりゃ！ならぬ！…そなたの威厳を損な
わぬようにしたが良い。(フリッツに)
おいで、一緒に歌っておくれ。

ブン大将 おお！ そんなことお考えになる
さえいけませぬ！

女大公 (彼に向きなおり) 何がいかんのか。

ブン大将 一介の少尉とお歌いになるなど…

女大公 少尉でも、不足かや…なら大尉とし
よう…それで足りるかえ。

(ワンダは、すっかり喜んで出てきて、
フリッツのすぐ近くの上へ通る。お
祝いするような様子。)

ブン大将 (だんだん苦虫をかみつぶしたよ
うな顔になり) 殿下！…(下手へ移動。
そのあいだに副官ネポムクは奥から上手
へ退場。)

女大公 (フリッツに) ここへござれ、大尉殿、
わらわと歌おう！

(侍女たち前へ出てくる。イーザとシャ
ルロットは下手に、オルガとアメリーは
上手に、フリッツは女大公のそばに出
る。)

Nr. 4 Regimentslied 連隊の歌

I

女大公 ああ！これは名高い連隊、

女大公の連隊！

フリッツ 敵が無礼を働いたら、

あつという間に攻撃だ！

女大公 本当に、軽騎兵たちは見事だそうね。

素敵な騎兵中隊。

フリッツ 背中のたてがみをなびかせ、

空を飛ぶ竜のよう…

女大公 砲兵隊にはその値打ちのある男しか
入れないといううわさよ。

フリッツ でも、この立派な連隊に

優るものはない。

一緒に ああ！立派な兵隊！

いくさでも

恋でも、

いつでも一等よ！…

トランペットを吹き鳴らせ、太鼓をたた
け、いくさに誉れあれ、恋に誉れあれ！

合唱 トランペットを吹き鳴らせ、など

II

女大公 おお、これは名高い連隊、

女大公の連隊！

フリッツ 名誉がモットー、

勝利こそその女主人！

女大公 どこに行くにも

極上の軍旗を立てよ…

フリッツ 女どもは誘惑され、

男どもは降参だ。

女大公 連隊が進むとき、

景色は変わる

フリッツ 男どもは誘惑され、

女どもは降参だ

一緒に ああ！立派な兵隊、

いくさでも

恋でも

いつでも一等よ。

トランペットを吹き鳴らせ、太鼓をたたけ、
いくさに誉れあれ、恋に誉れあれ！

合唱 トランペットを吹き鳴らせ、など…

ネポムク (奥から上手へ再登場) 上様！…

上様！…

女大公 はて、何じゃぞえ。

ブン大将 今度こそ、敵襲を知らせに参られたのしょうな！

ネpomク (いらいらして) あなたはいつも同じことを言う！…(女大公に) ポール王子がお見えになりました…あの方は前哨地帯にグログ男爵と一緒に足止めされておいでです…通行許可を命じるお言葉を求めておいでです。

女大公 (うざったそうに) ポール王子なのね！…また！…

ネpomク どのようにお答えいたしましょう。

女大公 そうね…ポール王子を引っぱってきて、わたしのところに連れてきなさい。グログ男爵については、もう名前も聞きたくはありません！…わらわはあの者を受け入れることを拒絶したはずです。それに今後も受け入れることはいたしません！…(ネpomク奥から上手へ出ていく。フリッツに) 制服をつけに行きなさい、大尉殿…そして、着替え終わったらすぐに戻っていらっしやい…どれくらい似合うか、見たいのですから。

フリッツ きっとわたしにはよく似合いますよ。(前景上手へ退場)

女大公 (兵隊に) 行きなさい、お友だち…行きなさい…間もなくまたお会いします。いくさに出ていくまえの最後の別れに！…

(兵たち、奥より上手へ、連隊の歌の繰り返し部分を歌いながら退場。ブン大将は侍女たちをテントのなかに入らせる。二人の兵士が舞台の奥の方に歩哨に残る。農民たちは奥の丘から上手、下手に遠ざかる。ワンダは下手に退場。)

第9場 女大公、ピュック、ブン大将。

女大公 (ピュックに) 行ってはいけません、親愛なる先生…(ブン大将に) あなたも駄目よ、將軍…もうじきあなたの進軍計画を検討するのですから。

ブン大将 殿下、それは結構なことで。

女大公 そうでしょうとも…行きなさい…あとで呼ばせましょう。(ブン大将とピュックはテントのなかに入る。女大公一人残る。) ポール王子ね！…ああ！…もう、これまで以上に耐えがたいわ！

(奥から上手にポール王子入場。花婿衣装で大きなオレンジの花束を抱えている。ネpomクが彼を先導して、女大公のところに連れてきて退出する。)

第10場 女大公、ポール王子。

ポール王子¹⁷⁾ (哀れな様子を漂わせつつ女大公のほうに進み) やあ、殿下、このいでたちは、まだ今日にふさわしくはなかったかな。

女大公 (彼を眺めて) でも王子…その装束は何？

ポール王子 (満足げに) ああ！よくお気づきで…花婿の衣装ですよ…あなたが決断なさるのではないかと思って身につけてみたのです…

女大公 今日、あなたと結婚するなんて…それは無理よ、親愛なる王子…やることがあり過ぎて…進軍計画は検討しないといけないし…軍隊は出発するし…考えてもみて！…結婚する時間なんてないわよ！

17) このポール王子の扮装は「出オチ」のように、舞台に出た瞬間、笑いが取れるようなものでなければならぬだろう。スーパー一座ではこの公演から参加した声楽家の若井裕司氏が、岩田や訳者たち関係者、また観客の思い出に残る素敵な役作りで期待にこたえてくれた。

ポール王子 いつでも〔結婚しない〕理由は
考えつくんだね…

女大公 それに、いつも上出来でしょ。

ポール王子 そうだね、でも上出来の言いわ
りばかりでこの6か月は過ぎたんだ！…
今朝、また、あなたが目通りをかなえぬ
愛の使者たるグログ男爵のところに…パ
パからの手紙が来たんだ。グログ男爵に
…

女大公 それであなたの…パパは手紙で何を
言ってきたの。

ポール王子 何もかもにうんざりしてもうお
しまいだと彼は言うのさ…あなたと結婚
しに来るために、ぼくが宮廷を出てから
6か月…ぼくが花婿としての地位を保つ
ために、父はかなりの手当てを出してく
れた…ぼくはその手当てを食いつぶして
いるんだ…君とは結婚していないし…そ
のことで気の毒な父は気を病んでいるの
さ…どうしたらいいか知りたいと思っ
てるんだ。

女大公 そうなの…

ポール王子 ちえっ！…そうさ…もしぼくが
君と結婚しなければ、パパは決心して、
他の女大公にぼくを紹介しようって言う
んだから。

女大公 あなたが選帝侯たるお父上に保証し
てあげるといわ…この婚儀はいずれ整
いますってね。

ポール王子 あなたはいつもそう言うけれど
…ぼくの結婚は世界中の宮廷に告知され
ている…世界中の目がぼくに注がれてい
るんだ…もうそろそろぼくのは気
の毒な人物として知られはじめてい
る頃じゃないかと思うんだ…

女大公 (笑いながら彼を見やる。) ほんとう
に世界中があなたに注目してるんだとす
ればね！…

ポール王子 それに他にももっと気がかりな
心配事があるんだ…

女大公 いったい、それは何…

ポール王子 (ポケットからたいへん小型の
判型の新聞を取りだし) 見てよ、殿下…

女大公 何なのよそれ。

ポール王子 オランダで印刷されている日刊
新聞¹⁸⁾だよ…ぼくの噂が書いてあるんだ。

女大公 まあどんな！…

ポール王子 そうさ、やれやれ…連中はぼく
のことを噂して見せるのさ…みんなを楽
しませるためなら何でも話すし、何でも
書くということを仕事にした連中が、
ちょっと前から現れたのさ…新聞屋って
連中だ…私生活に入りこむのさ、とてつ
もないことだ。もっととてつもないこと
には、連中はぼくの私生活をじゃましに
来るんだよ、ぼくの！ちょっと聞いてお
くれ。(オランダ新聞を読む。)

Nr. 5 Zeitungs-Couplet 新聞一時事小唄

I

「王女との結婚のため、
ポール王子は出かけた。
だが、急ぐことはないようだ。
結婚は延期だ。
毎日、夜が明けそめるころ、
ポール王子は白手袋をはめる。
今日だろうか…いや、まだだ…
そこで王子は手袋をはずす…
ポール王子は気高い心の持ち主。
苦しくても、じっと耐える…

18) 公式には議会に関する報道が禁止されていたイギリスで、オランダで発行された新聞が輸入されて禁止が骨抜きにされ、報道の自由が確立されていったことを思うと、宮廷ゴシップを書きたてる「オランダ新聞」はリアルな設定といえる。スーパー一座公演では、若井氏が自作して「ポール王子結婚」という大見出しのスポーツ新聞風の紙面をお客に見せていた。

(華やかに) こんな風にほくのことをうわさする。オランダ新聞では。

女大公 いつだって信用しなくては、オランダ新聞は。

(女大公は笑いながら上手へ歩く。)

ポール王子 (セリフで) でもこれで終わりじゃないんだ、殿下…続きを聞いとくれ。(再び読む。)

II

「王子はこの宮殿にやって来るや、全身燃え盛る炎となった。いとしい貴婦人の側に来るや、恋の炎に燃え立った。

これが半年も続いた後では、

もう火で焦がそうにも、

ほとんど何も残ってしまい…

さあもう、結婚申しこみ書をポケットにしまい…

ポール王子よ、お国に帰りなさい…

こんな風にほくのことをうわさする。

オランダ新聞では！…

女大公 いつだって信用しなくては、オランダ新聞は！…

(女大公、一層、笑いこぼる。)

ポール王子 むごい！…

第11場 前場と同じ、フリッツ。

フリッツ (大尉の姿で、前景から上手へ)

さあ、戻って参りました！…

女大公 ああ！ これで見違えたわ！…

(ポール王子に) 王子も見て、彼のことをどう思うか教えて。

ポール王子 これは美男だ…

女大公 こんな立派な人に命令するなんて誇らしいことでなくて…(フリッツに) 大尉殿…

フリッツ 何です、殿下…

女大公 (テントを指さし) あそこに入ってブン大将とピュック男爵に、わたしたちが待ちかねていると伝えて。

フリッツ 了解です。ほくも話がしたいところですよ！…(テントに入って行く。)

ポール王子 殿下…

女大公 (いらいらして) 今度は何…

ポール王子 ほくは答えてもらってないけど…

女大公 何を答えればいいのかというの、王子！

…政府の公務でとられる時間に余裕ができて、自分の幸せのことを考えられるようになったら、真っ先にあなたと結婚して自分のために役立てます…それまでお待ちあそばせ。

ポール王子 (絶望して) いつも却下で終わるんだね！

(ブン大将、ピュック男爵とフリッツ大尉がテントから出てくる。兵隊が酒保よりテーブルと4脚の椅子をもって出てくる。テーブルは舞台正面よりやや下手寄りに、椅子もそれにふさわしく配列する。椅子のうち二つはテーブルの下手、一つは上手、4脚めは中央に置く。テーブルのうえには地勢図がある。この仕事を終わると、兵たち退場。)

第12場 ポール王子、女大公、ピュック、ブン大将、フリッツ。

女大公 さあ、これからブン大将の進軍計画を検討します…(ポール王子に) あなたもご助言くださって、知恵をお貸しくださるわね…

ポール王子 (すねた調子で) お望みなら！

女大公 ああ！ ひどい、怒ってるのね！…

ポール王子 (同じ調子) そうさ…あなたはいつでもほくを会議に列席させるんだか

ら…

女大公 当たり前じゃなくて… わらわの夫になるつもりなら、特権をお持ちにならねばならないのではないかしら…

ポール王子 そりゃあ…あなたはぼくの政治的特権は拒まないけれども…他の特権もあるだろうに…

女大公 (高慢に) あら、何かしら…

ポール王子 (ワキ台詞) [ほかあ] 気が小さくて死にそうだ! (彼は下手へ少し離れる。女大公はテーブルの下手の一つ目の椅子に座る。)

女大公 (席に着いて) 皆様、着席ください。(ブン大将はテーブルのまえに、ピュックは上手の椅子に座る。フリッツに) あなた、大尉殿… (ブン大将は彼に退出せよと相図する。) あなたは護衛をしてください。

フリッツ お任せください。(剣を抜き、上手に行進し、縦横に動く。ブン大将とピュックは恨めしげに目くばせしあう)

ブン大将 (フリッツを眺めながら) ですが、このまま作戦を論じてもよいものかどうかわかりませぬのじゃが…

女大公 そんなことで悩まなくてもよろしい、將軍…お話しさい!

ブン大将 これ以上、簡単なことはござらん…おわかりかな、殿下、いくさの技は二つの言葉で述べることができる。切りとって、飲みこめじゃ。

女大公 ガレット [お菓子] みたいにね、…

ブン大将 まさにその通りです。殿下…切りとって、飲みこむこと、これをしようとするために…わしは軍隊を三つの連隊にわけるじゃ。

ピュック とてもよろしい。

ブン大将 (地図上の何点を示しながら) 一隊は右に行くじゃ…

ポール王子 とてもよろしい!

女大公 別の隊は左に行くじゃ…

ピュック とてもよろしい!

ブン大将 そしてもう一つの隊は真んなかに行くじゃ。

ポール王子 とてもよろしい!

ブン大将 こんな風に配備されたわしの隊は一点に向かって三つの異なった道を進み、そこで合流するじゃ…どこがその一点か…それはわからん…しかし、わかっておる。敵をぶっ潰すということだけはな!…(力をこめて)わしはぶっ潰すぞ!

女大公 興奮しないで。

ピュック (ブン大将に) お願いですよ。

ブン大将 (さらに力をこめて) 言うておくが、わしはぶっ潰すぞ!

女大公 反対はしないけど…けがしますよ。

ブン大将 (興奮して) 国のためじゃ! (立ちあがりサーベルを抜く。) 敵は! どこじゃ敵は。わしを敵のところへ連れていけ!…

(ピュックがブン大将の気を静まらせ、無理やり座らせる。)

フリッツ (にやにやしながら立ちどまっている。) でもあなたは三つの道で、どこへ行くのです!

ピュック (立ちあがり、真顔でフリッツに向かい) どうか、口を慎みなさい!

フリッツ (ずっとにやにやしている) 三つの道!…ひどいもんだ…三つの道!…

ブン大将 (激怒して) こやつ何とぬかす。

フリッツ こんな馬鹿らしい話はないよ、三つの道だって!…

ポール王子 いやはや!…

ブン大将 (立ちあがり) こやつ銃殺だ!

ピュック 將軍にこんな口のきき方をするとは!…(立ってブン大将と女大公のあいだに入る。)

女大公 しばしお静かに、皆さん！…(フリッツに) そなたはブン大将の三つの道ほど馬鹿らしい話はないと…おっしゃられたが、大尉どの。

フリッツ (テーブルに近づきながら) もちろん言いましたとも！ 証明もできますよ！

ピュック (女大公に) 殿下にうやうやしく申しあげます。この男には発言権がござらぬようにお見うけます…(ポール王子に近づく。)

ブン大将 ないわ、発言権など…

ピュック [この席に列するのは] 最高位の士官でなければならぬはず！…

ポール王子 (立ちあがり) 貴族でなければならぬ！…

ブン大将 この者には発言権はない！…

ピュック この者には発言権がございません…

女大公 (立ちあがり) お静かに、皆さん！…さもなければ、わが名誉にかけて！最初に口を開いた者の首をはねさせます！…皆さんがおっしゃるのはこういうことですか。発言権を得るには、最高位の士官でなければならぬと…この者を將軍にします！(ブン大将に) あなた同様にね…貴族でなければなりませんか…わらわはこの者をヴェルモン-フォン-ボック-ビエール男爵、アヴァール-ヴィント-カット-シヨップ-ヴェルジスマインニヒト伯爵といたします！…それでよろしいか、皆様…これなら、この者に発言権はありますか…(ピュックはポール王子の上手に移った。)

ブン大将 はい、殿下。

ポール王子 (小声でピュックに) あらまあ！言った通りだろ…あらまあ！言った通りだろ…

ピュック (小声で) お静かに…！会議をしましょう。

女大公 (フリッツに。座りなおしながら) ご着席ください、將軍…そして、言うべきことをおっしゃってください。

(ピュック、いんぎんにブン將軍が使っていた椅子をフリッツに指ししめし、そして自分は座りなおす。ポール王子も続き、ブン大将だけが一人で上手の隅に立っている。)

フリッツ (座りながら) 三つの道に分かれて敵に向かうのではなく…

女大公 (衣装を眺めながら) おわかりですか、將軍、襟が少し高すぎるようですが…少なくとも、後、半インチは低くしなければいけませんね…首をくつろがせなければ…おつづけなさい、友よ。(脇セリフ) 素敵！ 男前ね！

フリッツ わたしが言おうとしていたのは、一つの道でまっすぐに敵に向かい…敵と会戦し…友軍の助けを得て…できるだけ強烈にやっつけることです…やっつけるのです…やっつけるのです、こういうことです！…(立ちあがる。)

女大公 (立ちあがる。ピュックとポール王子も立つ。) とてもよろしい…ブン大将、この作戦に従いなさい。

ブン大将 (フリッツに詰めよる) そんな作戦に従えるものか！

女大公 何ですって…

ブン大将 わしは兵どもの流す血に対して殿下に責任を負っております…わしの計画には万全の自信があります…戦闘はしなくて済むのです…こやつ作戦ではどうなることやらわからない…

女大公 それで拒否なさると。

ブン大将 拒否します…任せるならこの男爵に…ええと殿下は何とおっしゃりまし

たっけ…

フリッツ ヴェルモン-フォン-ボック-ビー
エール男爵、アヴァール-ヴィント-
カット-ショップ-ヴェルジスマインニ
ヒト伯爵です！…(女大公に)彼は聞き
わけのいい男です…それが彼のやり方な
のでしょう…

ブン大将 その男爵を作戦の指揮に当たらせ
なさい。本人さえ良ければ！…(上手に
戻る。)

フリッツ そりゃわけないさ！…

女大公 ほんとね…それで、いくさには勝て
るの…

フリッツ さもなければ負けるだけですよ…
普通の人と同じでさあ。

女大公 ヴェルモン-フォン-ボック-ビー
エール男爵！…

フリッツ 殿下！…

女大公 天が武運を恵まれますように！…
たった今より、そなたは全軍総司令官で
す！…

フリッツ (ブン大将に)ほくに羽飾りをく
ださいよ、ね！

ブン大将 ふとどき千万…！

(ピュックはブン大将をなだめ、羽飾り
を彼から取りフリッツの帽子につける。
ブン大将はがっかりして、フリッツの帽
子に乗っていた簡素な羽飾りを帽子につ
ける。)

フリッツ どうしたい、情けない兵隊さん！
…

ブン大将 (逃れようとしながら)おお！

ピュック (ブン大将の下手に来て、小声で)
この場は納めて…仕返しをするのは3人
がかりです！ 絶対やってやる…

女大公 (フリッツを見ながら)ああ！ 何
て男前なの！…何て男前なのかしら！…
フリッツ大将…今すぐ全軍に知らせてや

りたい…ブン大将、総軍に軍備を着装さ
せなさい…

ブン大将 わしがですか！…ご命令とあら
ば！…

(テーブルと椅子を運んできたのと同じ
兵隊がやってきて、それらをもち帰る。)
ピュック (小声で、ブン大将に)従いなさい…
殿下の本心が明かされたのだ…恐れて
いた通りだ！…

(ブン大将は奥に下がり、舞台外側へ相
図を送り、上手へ戻る。その後、怒りく
るったブン大将は軍令をがなり立てる。
その口調は激烈だが発音不明瞭。士官た
ちが遠くでその叫びを復唱する。太鼓の
響きに乗せて、兵隊は奥から戻り銃を取
りなおして、奥で観客に向かい2列に並
ぶ。太鼓手たちは下手の先頭に陣取る。
ネボムクは兵隊を先導し中景の女大公の
少しうしろにとどまる。侍女たちはテン
トから下手前景まで出てとまる。農家の
娘たちは奥から上手と下手に来て、一団
は舞台の上手、一団は下手に分かれる。
丘のうえにとどまるものもいる。ワンダ
は下手から出て、フリッツの少しうしろ、
農家の娘たちのまえの一隅にとどまる。
この動作のあいだに、ポール王子はブン
大将とピュックに引っぱられて彼らに加
わり上手はしに進む。酒保のおかみたち
はそれぞれ自分の小隊を率いて先頭にい
る。)

第13場 前場と同じ、ワンダ、ネボムク、イー
ザ、オルガ、アメリー、シャルロット、
兵隊、農家の娘たち。

フィナーレ

Nr. 6a Chor 兵士の合唱

われらはいくさに旅立つ。

太鼓を打ち鳴らし！

またうしろを振り返り、
 さあ、前進！
 われらはいくさに旅立つ。
 太鼓を打ち鳴らし！

女大公（兵たちに）皆の者、汝らの主君の
 声を聞け…
 （フリッツを指し）汝らの新しき將軍を
 見よ！

合唱 彼がわれらの將軍か？

女大公 そうです、つわものども。確かに、
 信頼に応える値打ちのある男です。
 （彼女はフリッツを兵たちに示し、つづ
 いて侍女たちにも示す。彼女らはフリッ
 ツにお辞儀する。）

ポール王子、ブン大将とピュック（脇ゼリ
 フ、上手脇に固まり）復讐のため力を合
 わせ…抜け目なくやろう！
 奴は一人…幸運なことに！
 われらは三人だ！

ワンダ（フリッツに。彼のすぐ近くまで近
 よって）あんたが総大将なの！…

フリッツ ああ、そうとも、よく見なよ！

ワンダ ああ！ あたしのことなんか忘れ
 ちゃうのね…

フリッツ 怖がらなくてもいいよ、君…

ワンダ いつまでも愛してくれる…

フリッツ いつまでも！疑いは禁物だ。

ワンダ もう一度言って！…

フリッツ 気が済むまで言ってあげる。

女大公（フリッツとワンダに。二人の話を
 聞いたあと、いらいらして）そこで話が
 済んだら、わらわが待っていることも思
 いだしてくださらないかしら。

合唱（声を落として）二人を見つめる女大
 公、怒りの顔色、目にもみよ！

女大公（脇ゼリフ、気を落ちつけて）わらわ
 は女王ですもの、その義務とは
 自分の特権を守ること、

こころのうちを見せてはならぬ。
 （彼女の下手に来たネポムクに、大きく）
 今すぐお前もよく知っているあれを
 とってきておくれ。
 （ネポムク上手から退場。女大公、フリッ
 ツに近う寄れと合図を送る。）

皆（セリフで）いったい何のことだ？
 （ネポムク入場、うやうやしくサーベル
 を高く捧げもっている）

皆（セリフで）サーベルだ！

Nr. 6b Säbellied サーベルの歌
 クプレット (Couplets)

I

女大公（フリッツに、サーベルを示しなが
 ら）これぞ父上のサーベル！
 身につけておくれ！
 お前の腕は強く、お前の心は猛々しい
 力の剣を汝とともに！…
 お父様がいくさにおいでになるとき
 それでもお話はしてくれたのよ
 いかめしいお母様の手から
 この恐ろしい鉄のサーベルを受けとった
 の…

これぞ父上のサーベル！
 身につけておくれ。

合唱 これぞ父上のサーベル！
 身につけておくれ！

女大公（サーベルを抜きながら）

II

これぞ父上のサーベル！
 身につけておくれ！
 勝利のあとで、できるなら
 お前の無事な姿を見たいもの。
 もしお前が、いくさのさなかで倒れたら
 と思うと、
 ほんとに怖いのだよ、
 この世に祝福のときが

どこにもなくなってしまうのだ！
(サーベルを鞘に納め、気高く)
これぞ父上のサーベル！
身につけておくれ！（彼にサーベルを渡す）

合唱 これぞ父上のサーベル！
身につけておくれ！

フリッツ 誉れ高きお父上よりの
栄光に包まれたサーベルの守護はわたくしめにお任せあれ…
勝利して戻りますよ、さもなければ戻りません！

女大公 お前は勝利して戻るのです！

ブン大将、ピュックとポール王子（脇ゼリフ）
あいつは戻ってくるまいよ。

合唱（活気にあふれ）彼は勝利して戻るのだ！

ブン大将、ピュックとポール王子（脇ゼリフ）
あいつは戻ってくるまいよ！

合唱（熱をこめて）戻るさ！

ブン大将、ピュックとポール王子（もっと熱をこめて）戻るもんか！
(フリッツはワンダにサーベルを渡す。
ワンダはあこがれの念をこめて見つめている。)

Nr. 6c Finale フィナーレ

合唱

フリッツ

おれは勝つ、
 わが武勇で！
 わが砲兵隊
 わが騎兵隊、
 わが歩兵隊
 皆が勝利に
 酔いしれるのが、
 見えるようだ。
 太鼓を撃ち馴らし、
 深い谷の
 道沿いに
 われらは圧倒し、
 侵入する。
 敵は飛び去り、
 われらは追いたて、
 侵略する！
 陽気にわれらは進む、
 突進する。
 われらはすべて焼きはらい、
 いたるところで奪う…
 これで完璧！
 殿下のご選択の
 成果はこの通り！
 これで完璧、
 われらが帰還の暁には
 すべておわって
 一休みだよ、
 われらを英雄として迎えてくれるだろう。

ブン大将、ピュックとポール王子

奴は敗け、
 やっつけられるぞ！
 奴の砲兵隊、
 奴の騎兵隊、
 奴の歩兵隊、
 皆が踏みにじられ、
 引き裂かれ、破れはて、
 追いちらされるのが…
 見えるようだ。
 それに道でも
 谷でも、
 やつは何もかも置いて
 何もかもを忘れ、
 追いたてられ、
 追跡される。
 そしてわが国に
 敵は、陽気に入りこみ、
 満ちあふれるだろう。
 やつらはすべてを焼きはらい、
 いたるところで奪う…
 やってくれたもんだよ！！
 殿下のご選択の
 成果はこの通り！
 やってくれたもんだよ！
 われらはこの難局を眺め
 喜ぼう。
 こんな機会はないんだから、その時は、
 三人で心ゆくまで笑いころげよう。

他の兵たち 彼は勝つぞ、

その武勇で！
 彼の砲兵隊、
 彼の騎兵隊、
 彼の歩兵隊、
 皆が勝利に

酔いしれるのが、
見えるようだ! など

陽気に { われらは進む
やつらは進む

{ われらは突進する、
やつらは突進する、

{ われらは何もかも焼き払う
やつらは何もかも焼き払う

{ いたるところで奪う…
いたるところで奪う…

これで完璧!

殿下の } 選択
わらわの }

成果はこの通り!

これで完璧!

われらが } 帰還の暁には
やつらが }

全部終わって

一休みだよ

われらを } 英雄として迎えよう!
やつらを }

(つづく合唱のあいだ、軍隊は行進し、
下手を出発して女大公の前に整列する。
彼女は上手にいる。フリッツが列の先頭。)

総合合唱

行こう、行こう、 } 楽隊を先に!
行けよ、行けよ、 }

楽隊を先に、前進!

行こう、行こう、これは } お祭り!
行けよ、行けよ、これは }

行こう、行こう、 } 歌いながら!
行けよ、行けよ、 }

前進!

女大公 (サーベルがワンダの手中にあるの
を見て、フリッツに) お前はわらわの父
上のサーベルをお忘れだよ!

合唱 殿下のサーベルをお忘れだよ

(フリッツは急いでサーベルを取りに戻

り、抜いたそれを振って、隊列の先頭に
戻る。隊列は合唱の繰り返しをつづける。
丘のうえにいた農家の娘たちも上手と下
手から群衆に加わる。)

合唱 行こう、行こう、 } 楽隊を先に!
行けよ、行けよ、 } など、など、

(太鼓を響かせながら、兵隊は丘をよじ
登る、女大公との士気は高まる。軍隊は
太鼓を打ち鳴らしながら丘に上りはじめ
る。女大公とワンダはフリッツに投げ
キスをするが、フリッツはワンダにキ
スを投げる。活人画風の場面。幕が下り
る。)¹⁹⁾

つづく

参考文献

鎌田大資, 2018, 「見果てぬ「ユートピア国株式
会社」の夢を見る——岩田信市さんをしのび、
スーパー一座の四季を回顧する」『Rear』41: 83-
87.

——— 2020, 「「ポップ文人」岩田信市の演劇へ
の社会学的接近——コミック・オペラ上演史と
演目選定戦略から」『人間関係学研究』16: 1-22.
(相山女学園大学)

Meilhac, Henri et Ludovic Halévy, n.d. [1900-1902],
"La grande-duchesse de Gérolstein," *Théâtre de
Meilhac et Halévy de l'Académie française*, II, Paris:
Carmann Lévy, 179-305.

———, — n.d. [1900-1902] a, "Barbe-Bleue,"
*Théâtre de Meilhac et Halévy de l'Académie
française*, III, Paris: Carmann Lévy, 222-289. (=

19) このフリッツを大将とする出兵の場面で、参照
したト書きが不完全であり、丘の左右上下に分か
れて農民がいるという配置が明記されていなか
ったため、農民が下りてきて兵士と混ざって出
兵するという解釈から、誤訳によって何だかお
かしな流れの台本ができた。けいこ場でこの場
面を振りつけている際、何だかおかしけれどそ
の方が面白いからということで、コーラス隊の
村娘や酒保のおかみさんも兵士の隊列に混ざ
って出陣してしまい、逆にアナーキーなま
でに超民主的な岩田信市主催のスーパー一
座(あるいはその前身のゼロ次元)らしい前
半の幕切れとなったのは、創造的誤訳という
怪我の功名かも。

2018-2019, 「2006年度大須オペラ, メイヤック
& アレヴィ作「青ひげ」台本翻訳(上, 下)
——名古屋における演劇社会学の試み資料編」
『金城学院大学論集(社会科学編)』, 15(1):
135-164, (2): 12-39.)

森佳子, 2017, 『オペレッタの夜明け——オフエ
ンバックと日本近代』青弓社.

Offenbach, J., 1867, *The Grand Duchess of Gerolstein:
A Comic Opera in Three Acts (Translated from the
French of Messrs. Meilhac & Halévy)*, New York:
John A. Gray & Green (Printers).

——— 1967, *Die Grossherzogin von Gerolstein (La
Grande-Duchesse de Gérolstein)*, Berlin: Bote &
Bock. (ピアノ譜)

——— 1977, *La grande-duchesse de Gérolstein*,
New York: Columbia. (M2 34576) (LPレコード)

——— [1977] 1996, *La grande-duchesse de
Gérolstein*, Austria: Sony Music Entertainment.
(SM2K 62583, 14-062583-10) (CD)